

会 議 録

会議名	平成27年度 第6回印西市子ども・子育て会議
開催日時	平成28年3月22日(火) 午後1時30分から午後2時50分まで
開催場所	印西市役所本庁舎別館農業委員会会議室
出席委員	貝塚 有紀恵委員、升谷 貴久委員、古賀 一人委員、岩井 基委員、西村 信委員、 小谷 博子委員、海老原 由美委員、塚田 昌幸委員、片岡 一郎委員 計9名
欠席委員	梅元 妙子委員、前田 陽子委員 計2名
出席職員等	[事務局] 保育課 高石 裕司、小作 公哉、黒田 学 [関係課] 子育て支援課 鈴木 悦子、田久保 正樹、齊藤 直美 学務課 岡本 光世
傍聴者	3名
会議次第 議 題	1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 協 議 等 (1) 子ども・子育て支援事業計画に係る平成28年度における新規事業について 【資料1】 (2) その他 4. そ の 他 5. 閉 会
配布資料	・平成27年度 第6回印西市子ども・子育て会議 会議次第 ・【資料1】 子ども・子育て支援事業計画に係る平成28年度における新規事業について

1 開会

2 会長あいさつ

西村会長からのあいさつ

3 協議等

(1) 子ども・子育て支援事業計画に係る平成28年度における新規事業について

○事務局より説明

- ・利用者支援事業及び子育て短期支援事業について
- ・養育支援訪問事業について
- ・実費徴収に係る補足給付を行う事業について

○質疑

【小谷委員】子育て短期支援事業について、委託事業者である乳児院ほうゆうベビーホームに印西市からすでに入所している児童はいるか。

【事務局】現在印西市から入所している児童はいない。乳児院ほうゆうベビーホームは児童家庭支援センターも兼ねており、そちらは千葉県民であればだれでも利用できるもので、印西市の児童も利用している。

【小谷委員】乳児院ほうゆうベビーホームを委託事業者を選んだ理由は何か。

【事務局】住所が八千代市であり印西市から比較的近く、利便性が良い。金額的にも適当と判断した。松戸市にもあるが、実際に受入れが厳しい状況である。

【小谷委員】子育て短期支援事業について、市として積極的に勧めていく方針か。子どもにとって7日間の預かりは負担が大きいのではないか。

【事務局】保護者の急な疾病、育児疲れ等、冠婚葬祭等の相談に対応していく。広報やホームページ等でも積極的にPRしたいと考えている。

【片岡委員】一時預かり事業との利用区別、違いは何か。預けたい時に預けられないなど一時預かり事業が機能できていない状況で、さらに子育て短期支援事業を開始して大丈夫なのか。予算はどの程度か。

【事務局】予算は50万円程度である。2歳以上と2歳未満6名ずつを考えている。1日2名の枠があるので、早めに相談してもらうことで対応可能と考えている。

【小谷委員】児童相談所との連携で対応していくのか。

【事務局】市の単独事業である。

【小谷委員】児童相談所との連携で対応した方が良いのではないか。

【事務局】児童相談所との連携が必要なケースもあるが、子育て短期支援事業は、保護者の急な疾病、育児疲れ等、冠婚葬祭等の相談に対応するための事業である。

【小谷委員】保護者が希望すれば、申請のみで利用できるのか。

【事務局】市が保護者からの申請を受け、状況や施設の空きを確認にして決定する。

【塚田委員】申請から決定までの期間はどの程度か。決定に時間を要すると急な事態に対応できないのではないか。また、障害児も対応できるのか。

【事務局】2週間から1月程度と考えている。障害児の対応については、施設と協議しながら決定する。

【海老原委員】学校に相談があった場合、どのように連携をとればいいのか。以前はケース会議があった。

【事務局】子育て支援課に相談、情報提供してほしい。児童相談所との会議は月に1回定期的に行っている。関係課とのケース会議も3月に1回行っている。

【片岡委員】 養育支援訪問事業についてはイメージができるが、子育て短期支援事業はイメージができない。預けたいときに実際預けられるのか。一時預かり事業の充実を目指した方がよいのではないか。

【小谷委員】 保護者が施設に直接申し込めるのであればよいが、市に申請するとなると利用しにくいのではないかと。市内にある施設ではないので余計に利用しにくいと思う。市内に施設があるとよいのだが。

【事務局】 平成28年度実施に向けて協議した結果、核家族化により身近に頼れる身内がない世帯の受け皿の一步として子育て短期支援事業が必要と判断した。

養育支援訪問事業については、これまでも保育士や保健師等が行っていたが、新たにホームヘルパーの訪問を導入した。リスクを点数化して必要性を判断しながら実施していく。

(2)その他

【小谷委員】 保育園の4月の入園状況と保育士の不足状況について教えてほしい。

【事務局】 4月に中央南地区に2園開園するが、待機児童は0歳から5歳児で数10名いる。特に1歳から3歳児が多い。現在はまだ人数が不確定であるため、5月の会議の際に国に報告した数字を報告したい。

保育園の新設による増園で保育士確保は厳しい状況になっている。有資格者の掘り起こしも難しい。現場のニーズと、就労条件の希望が一致せず、就労に至らない状況である。

【小谷委員】 待機児童の問題で東京はかなり混乱しているが、印西市は大きな混乱にはなっていないようであった。

保育士を要請する側の意見として、印西市では将来の保育士確保のための奨学制度はないのか。

【事務局】 県の制度はあるが、市独自の制度はない。

【小谷委員】 現場実習で現実をみてしまうと保育士になることをやめてしまう学生が多い。就労条件や給与面で厳しい現実がある。保育士の確保は園側の努力だけでは困難である。市の補助やサポートが必要である。

【事務局】 市単独の補助は予算確保の面でも厳しい状況である。

【貝塚委員】 瀬戸幼稚園保護者代表であり、4月に入園するのだが、入園説明会で瀬戸幼稚園の給食が学校給食から業者委託の幼稚園給食に変更になる話を教育委員会の職員から初めて聞いた。その際配布された資料で金額が上がることも初めて知った。現在月3,490円だが、1食308円と牛乳45円で20日登園する月は7,060円になる。このことを急に説明されてもその場では意見が言えなかった。80食程度なので引き続き学校給食センターでお願いできないか4月以降保護者で集まって園に意見しようと考えている。その前に皆さんのご意見をお聞きたい。

【小谷委員】 貝塚さんは公立の幼稚園か。

【貝塚委員】 市立幼稚園である。

【事務局】 この件についての経緯を説明。印西市は公立幼稚園が3園。旧印西市の大森幼稚園は給食なし。旧日本埜村のものの幼稚園は事業者委託の幼稚園給食。旧印旛村の瀬戸幼稚園は印旛学校給食センターからの学校給食。合併前の状況を引継いでいる。学校給食センターは現在5施設あるが、基準の改正や施設の老朽化に伴い、平成29年度からは1施設の新設と施設改修で、3施設で小中30校の学校給食を賄うことになる。また、学校給食は本来児童生徒へ提供するもので、給食センターでは幼児用の対応が困難なことから、これを機にもとの幼稚園と同様の幼稚園給食へ変更することとした。これは教育委員会の決定事項であり、平成29年4月から変更となり今年入園する園児が途中から変更となってしまうため、入園説明会の際に説明させていただいた。

【小谷委員】 塩分量等の調整はどうしていたか。

【事務局】 幼児用の塩分調整はしていない。提供量での調整のみである。小さく刻むなどの対応もできていなかった。保健所から学校給食を幼児に提供するのであれば、幼児用の配慮が必要であると指摘を受けたこともある。幼稚園給食では、幼児向けの対応ができるだけでなく、卵と小麦粉に対応したアレルギー除去食の提供も可能になる。

【小谷委員】 塩分量の調整は大切。今のままでは病気になったりしたとき責任がとれない。幼稚園給食への変更は必要なことである。

【貝塚委員】5日間毎日給食でなければいけないのか。お弁当を持って行くのはダメか。

【事務局】もとの幼稚園では、給食は食育の意味もあり、みんなで同じ物を一緒に食べましょうということで5日間給食対応している。

【貝塚委員】年間150食で給食費は月いくらになるのか。

【事務局】もとの幼稚園では、月の食数によって給食費を変えるのは手間がかかるため、月額4,500円徴集し、3月に調整している。徴収方法については、瀬戸幼稚園で開始する際に再度検討したい。

【古賀委員】保育料はいくらか。

【貝塚委員】月6,000円、バス台が1,200円、給食費を併せても15,000円以内である。

【事務局】保育料については、3歳児が月8,000円、4・5歳児が月6,000円である。また、減免措置を行っているため、全員がこの金額を支払っているわけではない。幼稚園保育料については、新制度が施行されたこともあり、課題として認識している。

○事務局より連絡事項等

- ・次回会議について
- ・委員報酬について説明

7 閉 会

平成27年度第6回子ども・子育て会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

平成28年5月11日

子ども・子育て会議委員

古賀 一人

子ども・子育て会議委員

升谷 貴久